

科目名					授業の種類	授業担当者	
特別支援教育 I					演習	杉村 僚子	
学年	単位	時間数	授業回数	履修時期	選択・必修		
2	1	30	15	前期	幼免：必修	保育士：必修	
[授業の目的・ねらい]							
神経発達症や知的発達症などの特別な支援を必要とする子どもの発達や心理的特性、学習の過程を理解する。また、視覚障害や聴覚障害、肢体不自由など様々な障害のある子どもの特性、学習や生活上の困難について基本的な知識を身につける。それらを踏まえた上で、特別な支援を必要とする子どもの理解と援助について理解する。さらに、障害はないが、母国語等の問題により特別な教育的ニーズのある子どもの理解と援助についても学ぶ。							
[授業全体の内容と概要]							
障害の概念や関連する諸理念、障害児保育の歴史的変遷、特別支援教育の仕組み、主要な障害の特性と心身の発達など、特別な支援が必要な子どもの保育・教育の基本的知識について解説する。授業では、毎回レジュメを配布し、それに沿って授業を進める。授業の内容に関連した課題(小レポート、グループ討論、発表など)などを通して、理解を深める。							
[受講上の注意事項]							
・ 授業の中で、レポート課題や小グループでの話し合いを実施するので、これらの課題に積極的に取り組み、理解を深めること。 ・ 授業時に配布した資料を適切に管理し、毎回持参していつでも参照できるようにすること。							
[使用テキスト]				[評価基準]			
新・基本保育シリーズ⑰ 障害児保育 (西村重稀・水田敏郎編集 中央法規)				期末試験(60%)と授業中の課題(40%)			
[授業の日程と各回のテーマ・授業内容]							
回	項 目		授 業 内 容				
1	特別な支援を必要とする子どもの保育・教育の基本(1)		障害の概念や諸理念について学び、特別支援教育の基本について理解する				
2	特別な支援を必要とする子どもの保育・教育の基本(2)		障害児保育、特別支援教育の歴史的変遷、現在の教育課程について理解する				
3	知的発達症の子どもの理解と援助		知的発達症の定義や特性などについて理解した上で、具体的な援助の方法について学ぶ				
4	視覚障害の子どもの理解と援助		視覚障害の定義や分類、特性などについて理解した上で、具体的な援助の方法について学ぶ				
5	聴覚障害の子どもの理解と援助		聴覚障害の定義や分類、特性などについて理解した上で、具体的な援助の方法について学ぶ				
6	肢体不自由の子どもの理解と援助		肢体不自由の概念や起因疾患、特性などについて理解した上で、具体的な援助の方法について学ぶ				
7	自閉スペクトラム症の子どもの理解と援助		自閉スペクトラム症の概念や特性などについて理解した上で、具体的な援助の方法について学ぶ				
8	注意欠如・多動症の子どもの理解と援助		注意欠如・多動症の定義や特性などについて理解した上で、具体的な援助の方法について学ぶ				
9	限局性学習症の子どもの理解と援助		限局性学習症の定義や特性などについて理解した上で、具体的な援助の方法について学ぶ				
10	日本語の習得に困難のある子どもの理解と援助		問題の背景や支援の必要性について理解した上で、具体的な援助の方法について学ぶ				
11	子ども同士のふれあいと育ち合い		障害児保育の形態について理解し、子ども同士のかかわり、育ち合いについて学ぶ				
12	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成		個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用の方法について学ぶ				
13	園内での連携、関連機関との連携、家庭との連携		園内での連携、関連機関との連携、家庭との連携それぞれの必要性について理解した上で、具体的な方法について学ぶ				
14	幼保小の連携、小学校への接続		小学校との連携や接続の必要性について理解した上で、具体的な方法について学ぶ				
15	まとめと試験		これまでの内容を総括し、試験を行う				
実務教員としての経歴							
実務経験と授業の関連							